

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01776

研究課題名(和文) デザイン・ドリブン・イノベーション手法による伝統工芸振興についての考察

研究課題名(英文) Discussion of traditional crafts through design-driven innovation methods

研究代表者

佐藤 典司 (sato, noriji)

立命館大学・経営学部・教授

研究者番号：20309090

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：暮らしや社会の中に位置づけられる伝統工芸も、技術や制作工程を「変えない」誇りを持ちながらも、自身の作る製品の「意味を変える」ことが必要であり、デザイン・ドリブン・イノベーションの手法が有効であることがわかった。また、伝統工芸の制作にたずさわる職人以外の人々も、伝統工芸の世界に新しい意味を発見し、新しい意味を付与することがわかった。

一方で、課題として、伝統産業を活性化させるデザインマネジメントの普及のためには、伝統産業内のみではなく、現代産業・社会を含めた私たちの社会全体が目指すべき新たなビジョンを構築することがきわめて重要であることもわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

伝統工芸産業は、高齢化や後継者不足、原材料の不足や値上がり、需要の低迷などから、衰退の一途をとどる中、現代のライフスタイルに合わない製品仕様やデザイン、価格、流通形態などによる需要の低迷などが課題であり、デザインマネジメント手法による対応が必要とされている。そうした中、デザインに新しい意味を与えるデザイン・ドリブン・イノベーションの手法が、すでにいくつかの成功した伝統工芸活動事例の中に見出された点や、職人以外の人々が、そこに新しい意味を発見し、新しい意味を付与することがわかったことは、今後の伝統工芸世界をデザインマネジメント手法によって活性化する際に、非有意義な発見となった。

研究成果の概要(英文)：Traditional crafts, which are positioned in daily life and society, also need to "change the meaning" of their products, while being proud to "not change" their technologies and production processes, and the method of design-driven innovation proved to be effective. In addition, non-craftsmen involved in the production of traditional crafts discovered new meaning in the world of traditional crafts and found new meaning. On the other hand, we found that in order to popularize design management that revitalizes traditional industries, it was extremely important to build a new vision that not only traditional industries but also the entire society, including modern industries and societies, should aim for.

研究分野：デザインマネジメント

キーワード：デザインマネジメント デザイン・ドリブン・イノベーション 伝統工芸

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 全国の伝統工芸産業は、職人の高齢化や後継者不足、原材料の不足や値上がり、需要の低迷などから、衰退の一途をたどっている。そうした諸課題の中でも、とくに、現代のライフスタイルに合わない製品仕様やデザイン、価格設定、流通形態などによる需要の低迷などが課題となっており、デザインマネジメント手法による対応が必要とされている。

(2) 研究代表者(佐藤)は、デザインマネジメントの研究のために、またその成果を実社会で生かすべく、京都市や滋賀県において、長年にわたってデザインによる伝統工芸産業の振興活動を実践してきており、そうした活動経験をもとに本テーマの研究に資することができる考えた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、全国各地で進行しつつある伝統工芸の振興策について、デザインマネジメントの一手法であり、近年、注目されつつあるデザイン・ドリブン・イノベーション(Verganti, 2009, 佐藤ほか訳, 2012)の手法を使って研究・分析を行うものである。デザイン・ドリブン・イノベーションとは、製品に新しい意味(製品の体験から得られる価値など)を与えることによって生じるイノベーションを指し、製品のデザインを工夫すること、他分野の技術の導入、消費者の潜在ニーズ抽出などにより実現される。具体的には、京都市や滋賀県でのデザインによる伝統工芸振興事例を中心に、全国の同様の工芸品振興事例なども対象としながら、デザイン・ドリブン・イノベーションの手法の有効性や課題等について検討するものである。

3. 研究の方法

・本研究ではすぐれたデザイン価値を体現した製品が、そのアイデアやコンセプトの発生過程において、デザイン・ディスコース(参与する解釈者たち)の中からそれらがどのように生み出されるのかについて、とくに伝統工芸分野に焦点をあてて調査分析を行った。具体的には、プロジェクト活動を通じた参与観察や、関係者へのインタビューなどを通じて、デザイン・ドリブン・イノベーションの視点から検討した。

4. 研究成果

以下、デザイン・ドリブン・イノベーションの視点から、京都市や滋賀県での伝統工芸活動や全国の同様の工芸品活動事例を通じた参与観察や、関係者へのインタビューなどを通じて得られた成果である。

(1) 伝統工芸の歴史は古く、全国各地で創作作業を続ける職人たちの誇りは「変わらない」ことである。一方で、人々の暮らしぶりや社会は、急激な変化をとげている。そうした中、暮らしや社会の中に位置づけられる伝統工芸も、当然ながら「変わる」ことを余儀なくされる。こうしたジレンマは二つの方向から解決されるべきことがわかった。ひとつは、職人たち自身によって、伝統工芸品の「意味」が見直されることである。つまり、技術や制作工程を「変えない」誇りを持ちながらも、自身の作る製品の「意味を変える」ことであり、デザイン・ドリブン・イノベーションの手法が有効である。具体的には、ミツフジ(株)の伝統的な帯づくり用銀糸は、ウェアラブルの電導銀糸としてその意味を大きく変え、NECと京都の蒔絵師の下出氏による「蒔絵調印刷の漆バイオプラスチック」の開発、滋賀県の袱紗メーカー清原による「kokurumi ~こくるみ」の制作、同じく滋賀県のマザーレイクブランドの「KIKOF」の信楽焼や京都の「GO ON x Panasonic Design」の「IH対応の木製爛徳利」も、どれも元の伝統工芸品を離れた新しい意味を見出した製品であった。以上、伝統工芸という制約の中で、技術の急進的变化「テクノロジー・プッシュ」が期待されないかぎり、ベルガンティの唱える意味の急進的变化「デザイン・ドリブン」が重要な役割を果たすことがわかった(佐藤 2018; 佐藤 2021)。

(2) 伝統工芸製品に「新しい意味を与える」べくもうひとつの方向性は、伝統工芸の制作にたずさわる職人以外の人々が、伝統工芸の世界に新しい意味を発見し、新しい意味を付与することである。具体的には、企業人を辞めて家業の帯店を引き継いだミツフジ(株)の三寺社長や、漆調バイオプラスチックの開発を始めたNECの技術者たち、「kokurumi ~こくるみ」プロジェクトに参加した滋賀県守山市のママさんたち、「KIKOF」の東京在のデザイナー「キギ」の二人、「GO ON x Panasonic Design」のパナソニックのデザイナーたち、そして「GO ON」プロジェクトであるプロデューサー各務氏らであった。加えて、彼らは、新しい意味の発見者や付与者にとどまらず、しばしば、技術の急進的变化「テクノロジー・プッシュ」の提供者としての働きもしてい

ることがわかった。その意味からいえば、彼らと職人たちとの出会いは、ベルガンティの言う、理想的な「デザイン・ドリブン・イノベーション」の着地点であるところの、急進的な技術の改善と、新しい意味の生成が重なる「技術が語る瞬間」を実現していたことが明らかになった（佐藤 2018；佐藤 2021）。

（3）前述したような研究成果を得たものの、その課題は伝統産業内のみにあるのではなく、また伝統産業と現代産業・社会との接続のみにあるものでもなく、現在の私たちの認識下にある産業・社会像を超えた、伝統産業と現代産業・社会を含めた私たちの社会全体が目指すべき新たなビジョンを構築することがきわめて重要であることもわかった。このような問題意識を踏まえ、研究成果を広く社会に発信するために、デザインマネジメント研究全体の課題を捉え直し体系的に整理した書籍『デザインマネジメント論のビジョン』（佐藤ほか, 2022）にまとめ刊行した。主な内容としては、以下のとおりである。1) デザインと問題解決について（想像力やデザイン態度など）、2) デザイン知について（リフレーミング、批判的態度、実験主義、視覚化、デザイナーが知を生成する方法やデザインの思考など）、3) 「ものごとに意味を与える行為としてのデザイン」と「組織や社会を新たな方向に導くためのデザイン」について（ベルガンティのデザイン・ドリブン・イノベーション、デザイン・ディスコース、デザインリーダーシップ、デザイン・ケイパビリティなど）、4) デザインマネジメント論の新たな方向性について（デザイナーの組織における役割、意味と価値の違い、デザインリサーチ、属人性と組織的施策、製品・サービス開発的視点、デザイン・ディスコースとの戦略的ネットワーク形成など）である。

こうした内容を書籍にまとめ、それを世に問うことで、伝統工芸関係者はもとより、広く一般の間にもデザインマネジメントの重要性や手法に関する認識が広がることが、本研究の最終的成果であると考えている。

<参考文献>

・佐藤典司（2021）「デザイン・ドリブン・イノベーション手法による伝統工芸振興」『立命館経営学』59/6, pp.1-18.

・佐藤典司（2018）「伝統工芸産業の現状と課題，および今後のビジネス発展の可能性」『立命館経営学』57/4, pp.57-73.

・佐藤典司・八重樫文（監修・著），後藤智・安藤拓生（著）（2022）『デザインマネジメント論のビジョン』新曜社

・Verganti, R. (2009). Design-driven Innovation: Changing the rules of competition by radically innovating what things mean, MA: Harvard Business School Press. (佐藤典司（監訳），岩谷昌樹・八重樫文（監訳・訳），立命館大学経営学部 DML 訳（2012）『デザイン・ドリブン・イノベーション』同友館）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 佐藤典司	4. 巻 59(6)
2. 論文標題 デザイン・ドリブン・イノベーション手法による伝統工芸振興	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館経営学	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八重樫文	4. 巻 59(6)
2. 論文標題 経営学部におけるデザインマネジメント教育のための理論的背景：デザインカイバビリティとデザインリーダーシップに関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館経営学	6. 最初と最後の頁 65-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00014428	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yaegashi, Kazaru	4. 巻 Volume 2020
2. 論文標題 Development of indicators and tools to measure the design capability of companies	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 71-73 (3)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21820/23987073.2020.8.71	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 八重樫文・後藤智・重本祐樹・安藤拓生	4. 巻 58(4)
2. 論文標題 ビジネスにおけるアートの活用に関する研究動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館経営学	6. 最初と最後の頁 35-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤,典司	4. 巻 第57巻第4号
2. 論文標題 伝統工芸産業の現状と課題, および今後のビジネス発展の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館経営学	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八重樫, 文 ; 後藤, 智 ; 安藤, 拓生 ; 増田, 智香	4. 巻 第57巻第6号
2. 論文標題 意味のイノベーション/デザイン・ドリブン・イノベーションの研究動向に関する考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館経営学	6. 最初と最後の頁 101-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤, 智 ; 八重樫, 文	4. 巻 第57巻第3号
2. 論文標題 デザインシンキング研究の課題と展望 : 「デザイン思考」と「デザインシンキング」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館経営学	6. 最初と最後の頁 45-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Yuichi Inobori and Kazaru Yaegashi
2. 発表標題 How to Design "What Doesn't Exist Yet" through Human Centered Design and Seeking Future Needs
3. 学会等名 4D Conference 2019 Osaka (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 佐藤典司（監修・著）， 八重樫文（監修・著）， 後藤智（著）， 安藤拓生（著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 264ページ
3. 書名 デザインマネジメント論のビジョンーデザインマネジメント論をより深く学びたい人のために	

1. 著者名 エツィオ・マンズイーニ（著）， 安西洋之（翻訳）， 八重樫文（翻訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ビー・エヌ・エヌ新社	5. 総ページ数 228
3. 書名 日々の政治 ソーシャルイノベーションをもたらすデザイン文	

1. 著者名 八重樫文・安藤拓生	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 194
3. 書名 デザインマネジメント論（ワードマップ）	

1. 著者名 八重樫文・後藤智・安藤拓生（編著）， 立命館大学DML（著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青山社	5. 総ページ数 245
3. 書名 デザインマネジメント研究の潮流2010-2019	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	八重樫 文 (yaegashi kazaru) (40318647)	立命館大学・経営学部・教授 (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関